

令和6年度(2024)年度 日本体育大学 大学院 入学式 (研究科長代表式辞)

本日入学された皆様、日本体育大学大学院へのご入学、誠におめでとうございます。体育学研究科、教育学研究科、保健医療学研究科を代表しまして、お祝い申し上げます。また、これまで新入生の方々を支えてこられたご家族、関係者の皆様方にも、心からお喜び申し上げます。

皆さんが入学された本学の大学院は昭和50年1975年に体育学の修士課程が設置されたことから歴史が始まります。平成10年1998年に体育科学研究科として博士課程が設置され、現在は3研究科に修士号、博士号を授与できる課程を擁する大学院に発展し、身体にまつわる諸問題を扱う我が国を代表する研究拠点になっています。

さて、皆さんがこれから歩んでゆく専門は、体育スポーツ、教育、保健医療の分野です。これから皆さんが研究を続けるこれらの分野が、どのような意味を持っているのかについてお話したいと思います。かつて我が国の著名な経済学者に宇沢弘文さんという方がおられました。この方は、「社会的共通資本」という考え方を提唱されました。この社会的共通資本というのは、数ある社会資本の中でも、とりわけ人間の生存にとって重要な資本です。たとえば、それは、自然環境、教育、医療などが挙げられています。これらは私的な所有すなわち個人の財産として所有してはならず、また経済的利益追求の対象にされてはならないと、宇沢さんは述べています。教育活動としての体育も含まれると考えられますが、いずれにしても、教育、医療は近代市民社会において、人間の最も基本的な権利に関わる社会的共通資本として維持、管理されなければならない、それだけ人間の生存にとって重要な分野ということになります。

では、スポーツは、どうでしょうか。体育、スポーツは社会的共通資本に入れられてはおりませんが、平成23年法律第78号として制定された「スポーツ基本法」の前文で、こう書かれています。「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」これは本学理事長の松浪健四郎先生のご尽力によって、スポーツが日本の法律の中に、人類共通の文化として位置づけられた画期的な認識です。オリンピックの歴史を振り返ってみますと、今から2千年以上も前にギリシア人たちで始めた競技が、クーベルタンの手によって今や世界共通のスポーツと平和の祭典になっています。まさにスポーツは人類規模の文化といえるのです。皆さんがスポーツを研究することは、それが実験であれ、文献研究であれ、人類共通の文化創造に立ち会うことになるのです。

大学院での研究生生活は、常に不安との闘いです。とりわけ、自分の研究がどのような意味を持つのか、自分は社会にとって無益な研究をしているのではないかと、まさに実存的な悩みと不安に襲われることがあるかもしれません。

しかし、本学の研究科は、かように社会的共通資本ならびに人類共通の文化を研究する教育研究機関なのです。私たちの研究活動は、人類の生存、幸福、文化の発展と密接に結びついています。新入生の皆さん、臆することはありません。皆さんが自分の興味関心に従って問題を発見し、その問題を探求することそのものが、人類・社会の幸福と福祉につながっています。安心して自分の研究テーマに取り組んでください。

今日から皆さんは、本学が誇る教授陣の指導の下で、日々、学問の研鑽を積むことになります。大学院にて、どのような毎日を過ごせばいいのか。最後にそのことについて、教授陣を代表し、皆さんの大学院生活のイメージを次のようにお伝えします。日々、文献と格闘し、常にテーマについて考え、思索を重ね、ひるむこと無く執筆し、執筆せよ。

真理探究に向かう前途有望な皆さんが、この大学院で、充実した研究生生活を送られますことを、研究科を代表して祈念し、式辞といたします。

令和6年4月3日

日本体育大学大学院 研究科長代表 関根正美